



Point 3

Point 2

Point 1

Point 1

### 2分間で1回転する トゥールビヨン

キャリッジが1分間で1回転する一般的な“ワンミニッツトゥールビヨン”に対し、本作は2分間で1回転する特殊な1/2倍速仕様に。ダニエル・ロートが他にないトゥールビヨンを作りたいという思いから、機構内に独自パーツを組み込むことでこれを実現した。

Point 2

### 焼き入れと 焼き戻し

時計の伝統製法である金属パーツへの“焼き入れ”と“焼き戻し”。バーナーを使って高熱であぶり、冷ましてから歪みをとるためにプレス。その後、再び約320度である。今では多くのメーカーが省略するこの工程を、ダニエル・ロートはすべて手作業で行う。

Point 3

### 手作業のみで 天真のサイズを調整

サプライヤーから入手したテンプの軸“天真”を、納入時の100ミクロン前後から72ミクロン(72/1000mm)に加工。天真はわずかな差で精度に違いが出るため、誤差は許されない。使用するのはルイ・エリセ・ビゲの工具で、この作業だけで2時間を要す。

この機構が凄い!

天才肌の独立時計師

ジャン・ダニエル・ニコラ

JEAN DANIEL  
NICOLAS

2 ミニッツ  
トゥールビヨン

## 古典的なトゥールビヨンは キャリッジが2分間で1回転



### SPEC INFORMATION

時計師ダニエル・ロート製作によるトゥールビヨン。特徴的なバイオリンケースを採用。ケースサイズ：42×32mm ケースの厚さ：11mm ケース素材：Pt ストラップ：アリエーター 巻き上げ：手巻き 搭載キャリバー：Cal.JDN2000L 防水性能：日常生活 振動数：毎時1万8000振動 パワーリザーブ：60時間 ムーブメントのパーツ数：116個 石数：25石 ムーブメントのサイズ：35×24mm ムーブメントの厚さ：5.9mm

価格：2400万円

© シェルマン  
☎ 03-5568-1234

### 伝統的手法に思いを込めた 1/2倍速のトゥールビヨン

1980年代に腕時計サイズのトゥールビヨンの製品化に成功し、ブレグの再来と称されたダニエル・ロート。'88年に自らの名を冠したブランドを設立するが、2000年にそのブランドを去り、翌年、家族3人だけの工房「ジャン・ダニエル・ニコラ」を立ち上げる。そこで作り上げたのが「2ミニッツトゥールビヨン」だ。

ダニエル・ロートが新たな工房を立ち上げ、ひとりの時計師として活動を始めた理由は、自分が思い描く理想の時計を自分ひとりで作り出すため。よってムーブメントの開発・設計はもちろん、組み立て、調整、装飾、仕上げなど、すべての工程がロート自らの手で行われる。

「2ミニッツトゥールビヨン」はその名のとおりキャリッジが2分間で1回転するトゥールビヨン。一般的なワンミニッツやハーフミニッツではなく、このタイプを選んだ理由は、誰も手掛けたことのないトゥールビヨンを作りたいという思いによる。その思いが実り、内側に細かな歯を刻んだオリジナルパーツを組み込むことで、通常の1/2の回転速度に抑えた特殊キャリッジの製作を成し遂げた。

もうひとつの特徴が、ダニエル・ロートが時計師になりだての頃に習得した、19世紀の時計師たちの古典的手法を取り入れたこと。たとえば、ムーブメントパーツの素材はバーナーであぶって焼き入れし、冷やしてプレスしたあと、再びバーナーで青焼きにして焼き戻す。この焼き入れと焼き戻しを全パーツに対して行うのである。また、心臓部であるテンプの軸にも焼き入れを加え、手作業のみで天眞のサイズを調整。古風な工具を使い、2時間かけて磨き上げ、わずか72ミクロンのサイズに。こうした要領で、時計のあらゆる部分に手間暇惜しまず、昔ながらの手法で作りに上げられる。

それゆえ、ジャン・ダニエル・ニコラの工房における時計の年間生産数はわずか数本程度。ジュウ溪谷の伝統が真に息づいた稀有なコンプリケーションだ。